

おひさま通信 VOL.23

2022年1月1日発行



特定非営利活動法人共同子育て広場おひさま（以下「おひさま」）は、1986年以来活動をすすめてきた「すぎの子共同保育所」の保育実践をベースに新しく地域の子育て支援センターとしての役割を担いたいと2005年6月24日に設立・認証されたNPO法人です。2016年4月からは徳島市の認可を受けた「木のいえ共同保育園」の運営主体として様々な活動をしています。

おひさま通信は、会員や地域の方々と結ぶ機関誌として、おひさまの諸行事の案内や報告、木のいえ共同保育園の子どもたちの様子などを掲載しています。

つたえる、ささえる共保Tシャツ

無認可時代は補助金が少なく、共保継続のためにたくさんの事業活動をしてきました。その中の一つに地球Tシャツの作成・販売がありました。毎年、地球組保護者は発案し、共保の保育を残していきたいと考え、子どもの絵で共保Tシャツを作ってきました。

共保Tシャツを作り販売することの意義目的も、子どもたちの育ちの様子・収益のことなどを考えて、地球組の保護者は話し合います。

2020年度地球組12人は、日々の生活の中で認め合い、育ち合っています。その子どもたちの心が動いた成長の瞬間を、多くの方と共有し、共同保育のよさを広めていくために共保Tシャツを販売しています。



デザインの候補を絞っています



Kyoho takenoko 2020

7月4日に子どもたちが描いた『もも、びわ、れんげ、チューリップ、あじさい、たけのこ、葉うちわ、果樹園の看板、田植え、こいのぼりパーティーのランチョンマット』を地球・月の部屋一面に広げ、先生から子どもの様子を聴きながらじっくり見て歩きました。「たくさんの観察画を描いているので季節を追って載せたい」「大人は固定概念があるけど子どもだから感じることでできるチューリップの絵がいい」などの声があります。そんな中、候補としてあがっているのは『たけのこ』『果樹園』の絵。

タケノコの絵は自分たちで皮を剥き、切り、食べるという一連の生活の延長に描いた観察画です。1本の大きなタケノコを12人で輪になって眺めながら思い思いに描きました。同じものを前にしながら、皮つき、断面、剥いている途中など、心に残った面が絵として仕上がってきました。

果樹の4つの絵は、子どもたちが作った看板です。園の隣には2007年度卒の卒園児が記念品として植えた果樹園があります。「小さい子にも何の実がなる木が分かるように看板をつくらう！」という思いのもと、仲間と気持ちを合わせてピワやモモなどの絵を描いています。

共保Tシャツは、在園の子どもたちみんなが楽しみにしています。毎年、いろいろなテーマで何種類か作りますが、すべてのTシャツに子どもたちの生活や思いが詰まっています。子どもたちは「地球さんの絵が入ったTシャツ」と嬉しそうに着ています。そして保育園以外でも、毎年楽しみにしてくれている方がいます。ほっこりしてかわいい、子ども目線の発見や感動を描きこんでいる細かい描写を喜んで下さっています。

認可園となっても、共保Tシャツの販売を通して、共同保育の良さを広げていきたいと思っております。



Kyoho 2020



新しくなったプール
ようこそ保育園へ

プールが届くまで

子どもたちが仲間と一緒に楽しみ、大切にしてきたプールが2020年度の共保Tシャツと、これまで毎年積み上げてきて下さった売り上げで、新しいプールへと生まれ変わりました。子どもたちは、「ぷーるあたらしくなるとる!」「きれいやな!」「ぷーるはいりたい!」と、とても嬉しそうな表情で新しくなったプールを見て、早くプールに入りたい気持ちでいっぱいです。まだプールが届く前の出来事。大人から6月10日にプールが飛行機で届くことを聞いた子どもたち(年長)は、プールがどのようにして届くのか考えていました。「ほいくえんにはくこうがないけん、えんていにおとしてもらう」と子どもたちの中では飛行機が保育園に来るのではと思っている子も。当日はトラックで届けて下さいましたが、新しいプールが届いたことに喜びの気持ちでいっぱいのような様子でした。

プールが保育園に届いて

プール設置で新しいプールを見て「しましまのプールやなあ」「あたらしいけんきれいにせなあかん」「そうじちゃんとしよ!」とプール掃除にも熱が入ります。まだ新しいプールのため、滑ることが多いですが、つると滑って尻もちをついても「ぬれた!」と仲間と笑い合いながら掃除も楽しい子どもたちです。待ちにまった初めてプールに入る日。小さい子たちは「あれぷーる?」「おっきいなあ」と小プールでも大きく見える様子。ゆっくりプールに入り、水に慣れるために子どもたちの大好きなリズムで身体を動かしました。水に慣れてきた子どもたちは水面に顔を近づけてみたり、走ったりと水しぶきが身体や顔にかかるのも平気です。大きい子たちは、小さい子たちに比べてプールの中での動きもダイナミックになります。「ここふかいよ!」「ながれるぷーるしよ!」と自分たちであそびを考える姿もあります。

毎日暑い日が続きますが、新しいプールで仲間と一緒に身体を動かしたり水の抵抗を感じることは、子どもたちにとって身体づくりにも繋がり、楽しいあそびを共有したことは大切な思い出になります。それは、去年積み重ねてきた話し合いでできた共保Tシャツの売り上げ、共保Tシャツを欲しいと買って下さった方々、そして新しいプールを設置してくれた保護者の方、たくさんの方たちが繋がっているからこそ子どもたちが園で過ごしていく、仲間と様々なことを経験できる物品などを購入できます。園、保護者、OBさん、地域の方々の「繋がり」がこれからも続き、広がっていくよう園での子どもたちの姿やどのようなことに取り組んでいるかをこれからも発信していければと思います。

会員募集

みなさんの力でおひさまの活動を支援してください。

| | | |
|------|--|---------------|
| 年会費 | 正会員: 5000円 | 賛助会員: 一口1000円 |
| 会員特典 | 総会決議権(正会員のみ) おひさま通信配布 イベント割引(例: 園開放通常参加費 大人300円▶100円) | |

寄付・債券のお願い

会費・寄付振込口座および振込名義

※平成28年4月より振替口座の番号が変わりました。
郵便振替口座 01620-0-101329
口座名称 特定非営利活動法人共同子育て広場おひさま



発行

〒779-3125

徳島市国府町早淵字雀ヶ原218-6

Tel/Fax 088-642-5933

NPO HP <http://npo-ohisama.org/>

NPO法人共同子育てひろばおひさま事務局

(木のいえ共同保育園)

子どもたちの思いが詰まった共保Tシャツ

月組の時に天狗と出会う

月組星組で府中の宮神社に散歩へ出かけました。鳥居をくぐりみんなで神様に「あそばせてください」と挨拶をしに行きます。神社の中をのぞくと目の前には真っ赤な天狗のお面がこちらをじーっと見つめています。それを見て「こわい」と思ったり「おもしろい」と感じたりそれぞれ違った感じ方捉え方をします。月組はそのまま境内を探索します。神社の裏になるところは、木や草が茂っておりなんだか秘密基地みたいです。大人が「なんか天狗がでそう」とつぶやくと、「天狗探しにいこう!」と子どもたち。切り株を見つけては「天狗の椅子!」ふかふかの落ち葉があれば「あれは天狗の布団!」紙が落ちていれば「天狗からの手紙!」と次から次へと子どもたちから面白い言葉が出てきます。その日は星組の子どもたちにも「ここって天狗がすんだるんよ!」「だって月さんは知ってるもん!」「みんなで探検して天狗探しした!」と報告していました。保育園に戻ると、天狗の図鑑を見て天狗について調べたりもしました。天狗だけではなく、カラス天狗もいることや天狗の葉うちわの存在を知ります。それから府中の宮神社に行くたびに「天狗探しに行く!」と天狗探しの冒険です。小さな神社があれば「これはカラス天狗の家やな!」とカラス天狗の住処も見つかり「これ天狗の葉うちわちゃうん?」と葉うちわ探しまでしました。どんどん天狗の魅力に引き込まれる子どもたちです。



天狗の出会いから自分たちのあそびへ繋げていく

天狗と出会ってから子どもたちはごっこあそびでも天狗になってあそびます。柱の周りに椅子を並べて天狗の住処、他にも大天狗が修行をしたり、天狗下駄を履いて歩いたり、カラス天狗が空を飛んだり、人間の子どもをさらったりと自分たちが調べた天狗の世界を仲間と共有しながら、さらにイメージの世界を広げ言葉を通してあそびこんでいきます。葉うちわを自分たちで作ってみたり、おわんのおもちやを使って天狗の帽子を作ってみたりよりリアルに再現して楽しんでいました。



発表会では「てんぐのはうちわ」を題材に劇あそび

天狗の世界であそびこんできた子どもたちは、絵本の「てんぐのはうちわ」の絵本の世界に引き込まれ、みんなで「劇はてんぐのはうちわがしたい!」ということで生活発表会で披露することになりました。劇あそびにとりかかる前に、いろんな道具を作ったり、見立てたりしてあそびました。「はなはなたこーなれー」「はなはなひくーなれー」のセリフが大好きになり、いろんな物や人に葉うちわを使って妖術を使っていました。月組の天狗の世界はいろんなクラスに広まり、クラスを越えて少しずつ天狗の存在が伝わっていきました。



地球組の親子まつりのおみこしは「てんぐのお神輿」

子どもたちが地球組になり、地域の人に神様の力を分け与え、地域の人にも元気に過ごせるようにとすることをおみこしをすることになりました。「どんなお神輿にしたい?」と聞くと、以前散歩でお神輿を見たことを思い出して「かみさま!」「なんか屋根のところにキラキラの鳥!」「鈴もついとった!」と仲間と伝えあっていました。「みんなが知ってる神様は誰なん?」と聞くと「ん〜、てんぐ!」と話す子どもたちです。月組のころからあそびこんでいた天狗は子どもたちにとって自分たちを見守ってくれる大切な存在になっていたようです。「神様はおみこしの中に入れよう!」「食べ物(お供え物)も入れよう!」と。



おまつりの景品で作った果樹園のチケット

おまつりでは、地球組のお店もしました。くじびき、輪投げ、サイコロ、ボーリング。それぞれ景品があり、ボーリングでは子どもたちが作ったチケットがプレゼントされます。チケットを作るときもどうしてチケットが作りたいのか聞きました。

初めは「おまつりやし」「チケットないと入れんけん」と話していましたが、一人の子どもが「次の日は小さい子のお店なんやろ?ほな、小さい子のお店に行くときにチケットがないと入れませんよっていうことにしたら?」と。それを聞いて「いいな!」「そうしよう!」と仲間たちは大賛成でした。野菜や食べ物に関連しているお祭りのため「野菜かな?」「なににする?」と悩みましたが、保育園のいろんな場所を想像して「あ!果樹園は!?!」と気づきます。果樹園にも果物があることに気づき「果樹園の果物をチケットにしよう」となりました。果樹園の看板を作った経験から自分たちで思い出しながら果物チケットを作っていました。チケットも一人ひとり違った形のもので個性あふれる物となりました。

果樹園の看板づくりまで...

年長になってすぐに子どもたちと、園内探検に出かけました。どこにどんなものがあるのか、だれのクラスなのか知っているけど年長になってから見に行くことで、これからお当番活動が増えたりちびっこ先生に行ったりする機会も増えるため、大人と「今年はどうなところをお掃除しようか」「どんな時にちびっこ先生に行こうか?」など話をしながら探検を楽しみました。果樹園にも行きました。「これはなんの果物の木かな?」と大人が聞くと「わからん」と子どもたち。「でも、大きい子がわからんかったら小さい子はどうなんだろう?」と聞くと、子どもたち「小さい子もわからんと思う」「それじゃあどうしよう...」と考える子どもたちです。そして「ほな、看板作ればいいんじゃない?」と子どもが話します。その場で「さんせい!」となり、今年1年を通して看板づくりに取り組むことにしました。果樹園に季節の果物がなればみんなで見に行き、枝ごと部屋に持ち帰り観察画を描きました。5歳時で全体の空間を把握して描くことはまだ難しいです。「考えてから〜する」という活動は9歳半の節で獲得します。幼児期は概念的に描く時期なので、表現したい内容と感動があれば感じたまま思ったように表現します。生活で感動したこと全身で伝える実感や感動を表現します。絵を描くときは「こうでないかあかん?」と思ったり「ここはどうなってる?」「よくみてごらん?」など教え込んだりするのはなく、自分が触れたとき、匂ったとき、見たとき、食べたとき、音を聞いたときと、五感を使って感じたまま絵で表現することを大切にしました。子どもたちは自由に描きます。仲間の絵を見て素敵と感じ、自分の絵に取り入れたりもします。木の板に直接マジックで描いて、仲間と一つの看板を仕上げました。

完成したTシャツを自分たちの目で確認したとき「早くみんなに着て欲しい!」と大喜び

「かわいい!」「これ〇〇が描いたやつで!」「いい感じ!」と嬉しそうに仲間とやり取りしていました。Tシャツ販売は保育園にて行います。販売する時も、自分たちのTシャツを着て、保護者と一緒に「いらっしやいませー!」と大きな声でお客さんをお呼びしていました。

